

各地区業況アンケート結果（30年5月調査分）

（30年5月24日）

全国鉄鋼販売業連合会

5月23日締切で、当会役員151名に対しこのアンケートを行ったところ72名の回答があり（回答率47.7%）その結果が下記のとおりまとまりましたのでご報告致します。なお、本結果は鉄流懇など重要会議に資料として提出しています。

※ $DI = (A \times 2 + B \times 1 - D \times 1 - E \times 2) \div \text{総回答数} \times 100$ 、(数は回答実数)

1. 売上数量、前年同月比増5割強

問1】貴社の4月（先月）総売上数量・総売上金額は、前年同月と比し如何でしたか？（答）

	A. 10%以上増	B. 5%以上増	C. ほぼ横這い	D. 5%以上減	E. 10%以上減	計	前回
売上数量/前年同月比	18	21	27	3	3	72	69
比率	25%	29%	38%	4%	4%	DI+67	DI+59
売上金額/前年同月比	29	23	15	3	2	72	69
比率	40%	32%	21%	4%	3%	DI+103	DI+88

2. 黒字7割強、赤字は5%

問2】貴社の4月（先月）の鉄鋼部門における企業収益状況は、如何ですか？（答）

	A. 黒字	B. 若干黒字	C. 収支トントン	D. 若干赤字	E. 赤字	計	前回
企業収益状況	19	34	15	3	1	72	69
比率	26%	47%	21%	4%	1%	DI+93	DI+91

3. 仲間取引、自動車向けやや減少傾向

問3】貴社の営業窓口から見て5月（今月）の販売量は、前月に比し如何ですか？（答）

	A. かなり増加	B. やや増加	C. ほぼ横這い	D. やや減少	E. かなり減少	計	DI	前回
公共建設向	2	7	36	9	2	56	-4	-2
民間建設向	3	18	32	9		62	+24	+22
自動車向		1	28	8	1	38	-23	+3
その他需要家向	2	11	39	12		64	+5	+8
仲間取引	1	3	38	18	2	62	-27	-17
計	8	40	173	56	5	282	-4	+3
比率	3%	14%	61%	20%	2%			

4. 夏場に向け期待感高まる

問4】貴社における向う6月から8月までの需要動向について貴殿の予測は如何ですか？（答）

	A. 増加	B. 微増	C. ほぼ横ばい	D. 微減	E. 減少	計	前回
短期需要動向予測	4	37	27	3		71	69
比率	6%	52%	38%	4%		DI +59	DI +33

5. コラム不足気味

問5】下記主要品種の貴地区市場の需給状況は如何ですか？貴社の取扱品種のみについてご記入ください。(答)

5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	品種別	A	B	C	D	E		5月
D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	需給状況	非常に不足	不足気味	需給均衡	過剰気味	非常に過剰	計	D I
-17	-31	-24	-29	-20	-19	-11	10	8	-4	-17	0	鉄筋用丸鋼		4	21	4		29	0
-8	-14	-3	-13	-13	-13	-6	3	-4	7	10	10	構造用丸鋼		6	22	3		31	10
-7	-11	-12	-9	-5	-9	-3	3	0	0	-10	-3	平角鋼			31	1		32	-3
4	-18	0	0	15	22	29	38	25	22	8	-6	H形鋼		2	25	3		30	-3
-5	-16	-26	-13	0	21	32	54	29	48	11	33	コラム		9	11	1		21	38
-7	-10	-16	-13	0	-8	-6	11	19	3	0	3	小形山形鋼		2	28	4		34	-6
-10	-26	-19	-16	-5	-5	-5	6	-7	0	-13	-18	中形山形鋼		1	28	5		34	-12
-10	-24	-22	-5	3	-3	0	11	0	-3	-3	0	溝形鋼		1	28	4		33	-9
-4	-19	-20	-13	-10	-10	3	0	4	-3	-16	-15	軽量形鋼C形		1	22	5		28	-14
0	-9	-20	-5	-18	-14	-15	5	-5	-9	-16	-16	軽量形鋼広巾			17	3		20	-15
17	9	7	3	23	0	29	22	44	41	32	4	冷延薄板	1	3	23	1		28	14
0	3	-12	-9	11	14	39	46	61	50	31	27	熱延薄板		9	25	1		35	23
30	16	-3	-6	35	31	47	53	73	59	50	40	表面処理鋼板	1	9	19	1		30	33
52	32	9	14	45	31	64	69	76	80	52	32	酸洗鋼板		9	22	1		32	25
0	-13	-11	-5	10	10	46	53	76	55	24	21	中板		7	30			37	19
-6	-8	-19	-19	-5	3	29	21	18	21	8	-6	厚板		6	30	1		37	14
-6	-19	-7	-18	0	5	17	0	-7	6	-6	0	極厚板		3	12	1		16	13
0	-6	-11	-9	-6	3	20	6	-4	3	-7	3	縞板		1	26	4		31	-10
-19	-16	-28	-14	-15	-3	0	3	7	0	-12	-11	中径角		1	33	3		37	-5
-9	-15	-23	-13	-16	5	0	8	-3	3	-9	-8	ガス管黒		2	30	5		37	-8
-9	-11	-21	-18	-20	-3	3	3	-3	-3	-14	-6	構造用鋼管		1	32	4		37	-8
-1	-9	-14	-10	1	3	15	21	22	18	5	4	計	2	77	515	55	0	649	4

6. 価格転嫁に苦慮

問6】貴社の地域の景況、主力取扱品種の需要動向は如何ですか？地域の特殊事情・需要動向・信用問題などを織り交ぜて、概況をお知らせください。(答え)

北海道	A	今年が目玉物件は、設計が間に合わないという理由で延期になった。これから人手不足による工期遅れや建設コスト上昇により見合わせる案件が出てくる可能性がある。
	B	物件は好調な動きだが、倉出販売は今ひとつの状況。広い品種でメーカー値上げが実行になっている。採算改善を図るため徐々に価格転嫁は浸透しているが、完全に浸透するまでには至っていない。
	C	丸棒案件の出具合は春先からスロースタートする模様。本格的な出荷はGW明けからである。総体的に大型物件はあるがS造中心に変わらない。年間需要は、良くて前年並みと予想。
東北	A	土木、建築ともにこれ以上よくなるのではないかと。適正口銭の確保に徹する。
	B	一部鋼材の納期が延びていることや一次加工先が山積みの問題で不足しており、工程の見直し案件が散見される。今後も引続き注意したい。
	C	昨年から一次加工が多い。価格は値上げしたが、利益は更に圧縮している。忙しいファブと暇なファブがはっきりしてきた。忙しいファブは商社、メーカーの仕事をしていることが多い。
新潟	A	3月、4月と思うように価格転嫁できていない。
	B	ファブの仕事は山積みだが、地元案件が少なく倉出しは低調である。
	C	連休前後も景況感は良くない。荷動き鈍く、価格転嫁も遅れ気味である。5月後半の動きに期待するも流動的である。
	D	荷動き、値上げの勢いが鈍くなってきた。値上の転嫁も疲れてきた。どこまで転嫁できているのか。下がる前に上げ切れるか心配である。
	E	自動車部品の国内向けは減産、海外向けは相変わらず好調である。
	F	期待したほど需要がない。大型物件は首都圏中心にあるが、我々の在庫が活用されるような物件は少ない。5月以降に期待したい。
	G	ファブは豊富な受注残を持ち稼働しているが、シヤの稼働率は思いのほか上がっていない。暖房機器などは例年通り端境期も立上げは早く前年比増である。産業機械、自動車は期末増産の反動で減少しているが、全般的には前年比微増である。価格は値上げ玉が入荷し、積み残しの解消へ段階的に交渉しているが苦戦している。
東京	A	GW前後も特別引合いなく依然かったるい状態である。タイト感もなく、叩き売りともではないが、安値販売も散見され値上げに苦慮している。レベラー加工も短納期で入るレベルである。
	B	(鋼管)出荷は低調だが、メーカー値上げの転嫁により、市況は強含みで推移しており先物の引合いは多くなってきている。
	C	値上げに一服感はあるが、転嫁がしっかり出来ていないため引続き値上転嫁に動いていきたい。
	D	4月は例年通り、年度末の反動で荷動きが悪かった。しかし、前年比では増加しており悲観するほどではない。高炉メーカーの値上転嫁は道半ばで収益は全く改善されていない。荷動きに関係なく値上げはしていかなければならない。
	E	4月の販売数量は日当りで前月比4.5%減少、ユーザー、仲間取引とも低迷した。メーカー事情で入荷が悪く在庫はタイトである。それでも需給がミートしていないせいか価格交渉は難航している。一段と価格転嫁が難しくなっている。

東京	F	メーカーからのロールスキップや枠制限の影響で在庫の歯抜けが目立っている。
	G	例年、4～6月の需要は落ちるのだが、今年は3月、4月、5月と月を追って出荷、加工とも増加している。公共、民間ともに建設向けが堅調である。これに合わせるかのようにメーカーが更なる値上げを実施している。
静岡	A	最近GW云々という事由は全く感じられない。人手不足も何故か無関係となる不思議な状況である。建築関係は確認申請が遅く、取り掛かりの重なる懸念があるものの余裕を感じる。大手流通の一次加工、二次加工の供給はキャパオーバーで慢性的である。同時に設備投資を各社実施しているが、納期、価格、CS（顧客満足度）など全ての面で向上しているとは思えない。住宅向け鋼管杭の市場に参入しているが、工法のロイヤリティによる構造設計の折込みなど厳しい業界である。この建設業界活況の現在、「老舗と言われる業者が苦境に立たされ債務不履行」など情報誌に掲載が続く。
	B	建築案件はあるものの大型で他地区の物件が多く、地元の中小物件が少ない。繁忙感はあるでも盛上りに欠ける状況。繁忙感は人手不足によるところが大きい。薄板の店売りは今年に入り全くタイト感のない状況となっている。
石川	A	GW後、思ったほど忙しくない。某大手ユーザーが材料の値上げを認めてくれないため、そのユーザーの下請先に値上げをお願いしても拒絶され困っている。
	B	目立った変動もなくなった様な気がする。工場も満杯である。建設工事も鉄筋工が余っているが、他工程の職人は不足気味である。モノ造りは一時の窮屈感は落ち着いているが慢性になっている。残業の規制が更に厳しくなった。工場は短時間残業になっている所が多い。孫下請業者がとぼちちりを食う変な構造である。
富山		地元異形丸棒メーカーの故障により入手難のサイズが見られる。稼働率にゆとりはあるが、先々の受注があるため焦りは少ない。12m定尺は入手難で、製品の歩留まりも悪化傾向である。
岐阜	A	産業機械や設備関連、建機関連向けは堅調に推移している。産業機械向けなどの構造用丸鋼がメーカーの入荷遅れなどからタイト感が見受けられる。メーカー販価も据置き状態で、価格転嫁も思うように進んでいない。
	B	4月前半から仕事が薄くなってきた。ブレーキが掛かった様に荷動きが悪い。仕入先の営業が売込みに来るようになる。少しずつ仲間同士の競合も出てくる。当社は人手不足で対応できない。しかし、競合他社も人手不足だと思っようにしている。一時的なものだと思いたい。
愛知	A	連休もあり、5月トータルとしては良くないが、日々の動きはまずまずではないか。ただ、この地域は自動車の動きに左右される。あまり芳しくない。その他の業種も斑状態である。価格の動きもその需要状況からはっきりしない。
	B	5月に入っても荷動きは良くない。6月からの動きに期待しているが、手ごたえは全然感じず不安である。価格に一服感があるが、スクラップの値動きから考えるともう一段高がありそうだ。
	C	自動車関連の設備は季節的要因もあり低調だが、工作機械は好調を維持している。形鋼、鋼板の出荷は良かったが、価格転嫁に苦戦している。鉄骨はRグレードにも仕事が入り、手が空いているファブは少ない。
	D	(鋼製家具) 今期は期待していたが、年明けに落込み、4月は持ち直したが半期では微減である。(自動車) 大きな変化はないが、微増傾向。(陳列) 上期は残念ながら大幅減である。値上げ転嫁に苦労している。業者により温度差がある。引き続き転嫁に注力する。自動車のEV化は大手でも見通しが立ちづらい。3段階位の想定でシミュレーションをせざるを得ない。

三重		ファブの山積みは先々までであると聞いているものの鉄骨単価には反映されない。H、Mクラスファブの下請け仕事でRグレード以下のファブが埋められ中小物件が少ない。そのためかショット付き一次加工の注文が多く、しかも短納期でさばききれていない。中部圏の材料価格は関西に比べ、なかなか上らない。この理由は関西大手問屋が同業者には高すぎる価格で売り、直売りファブには安すぎる価格を提示するからである。
大阪	A	販売数量は4月と大きく変わらない。ただ荷動きは底堅いものがあるものの、迫力に欠ける。メーカーの高値玉が月を追うごとに入荷してくるため採算確保のために販売価格への転嫁を推し進めている。
	B	端境期と言う事もあり、全般的にぱっとしない荷動きが続いている。公共土木工事も低調で新年度予算執行になるまで動きそうもない。一方で消費税増税を睨んだ宅地造成の動きは活発である。先行き増税前の駆け込みで、住宅の動きが期待できそうである。
	C	引き続き、メーカー値上げ圧力は強いが定尺を中心に足元の荷動きは良くない。連休明けに期待したい。
香川		年度明けで市中の動きは良くない。動きが悪いため、値上げも浸透しづらい状況である。メーカーは更なる値上げを考えているようだが、流通は早く市況を上げていかなければならない。
北九州	A	売上を確保すれば、利益低下もやむなし。
	B	5月連休前後から倉出販売は低迷、加工は増加している。電話の鳴りが悪く、相場の上値は重い。高い玉でしか補充できず安値追随は見送り。
	C	流通の荷動きは落ち着いており、メーカーからの入荷も順調で、仕入価格はまだ上がるため採算面に不安が残る。運賃コストも上がっており、市況に上伸力もなく、配送価格の見直しが必要と思われる。
福岡		3月20日以降、見積り、引合いも少ない。4月は全体的に荷動きが鈍った。5月連休明けの動きが心配である。また、材料（ステンレス、鉄）の値上げも今後の課題である。今、お客様が求めているジャッジの速さにどれだけ企業が対応できるかを問われているので、働き方改革（仕事改革）を推進していきたい。